

コロナに負けない 学区社協の居場所づくり

活動再開のチェックリスト <中京の目安>

第1版

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちが平常より取り組む身近な地域で顔の見えるつながりづくりに大きな影響をもたらしました。

そうした中、地域では福祉活動の再開を視野に入れ動き出している学区もあります。感染症が終息していない中で、長期戦を見据えながら感染症予防と新しい生活スタイルに適應した活動をすすめていくことが求められます。

活動者の皆様におかれましては、役員・スタッフをはじめ参加者が共に安心・安全に楽しんでいただけるよう、話し合いや工夫・準備をすすめられているのではないのでしょうか。

本チェックリストは、感染予防対策の基本的な内容を整理したものです。活動再開に向けてご活用いただければ幸いです。

活動再開のチェック 40 項目

1. 活動を再開する前に話し合うこと

- もう一度、活動の目的を確認してみましょう。
- もう一度、開催方法を確認（見直）してみましょう。
- 役員、ボランティア間のコミュニケーションの取り方を再確認しましょう。
- 地域内で理解を共有しながらすすめてみましょう。
- この機会にぜひ、他の取り組みも参考にしてみましょう。

2. 感染症対策についてそなえること

<参加に際してのルールづくりをしましょう>

- 事業参加前にご自宅などで検温をし、発熱、咳などの症状がある場合は参加しないようにしましょう。
- 手洗い、うがいなどの基本的感染症予防対策を徹底しましょう。
- 室内や距離が取れない時は、マスクを着用しましょう。

<ソーシャルディスタンスを確保しましょう>

- 大人が両手を広げてお互い手を握れる距離が取れる人数は何名くらいかを確認しましょう。間隔は、2メートル（最低でも1メートル）が目安です。
- ソーシャルディスタンスが保てない人数の参加が見込まれる場合には、時間を分けて複数回に分けて実施するのも一案です。

<消毒液の準備をしましょう>

- 複数の人が触る場所を確認しましょう。特に、重点箇所として、ドアノブ、テーブル、椅子、トイレの洗浄レバーハンドルなどがあげられます。

- 手洗い環境がない場合は手指消毒スプレーを用意するなど工夫をしましょう。

3. いよいよ活動を再開！

<広報をしましょう>

- これまで参加されていた方や新たな参加者にも参加を呼び掛けましょう。

- 広報（チラシまたはポスター）には、具体的に感染症対策をほどこしていることを明示しましょう。

- 参加者多数の場合には、三密防止のため参加を制限する必要があることを明示しましょう。

参考：「新型コロナウイルス感染を予防するために」[京都府広報]

<当日に向けて準備をしましょう>

- マスクの着用、体調が悪い人は参加しないことを明示しましょう。

- マスクや手袋、消毒液などを準備しましょう。

- 手洗いや、消毒、咳エチケットなどのルールについてわかりやすい表示を作成しましょう。

- 飲み物のカップなどは、洗浄の必要がないように紙コップなどを準備しましょう。

- 当面の間、体操に使うマットなど、共有器具の使用はできる限り控え、使用が必要な場合は前後に消毒しましょう。

- 材料を使うプログラムの場合には、複数で共有する必要がないように個別に準備するか、共有の材料や道具を使わないプログラムに変更してみましょう。
- お茶菓子を提供する場合は、個装されたものなど個々に配布出来るようにしましょう。

<プログラムの準備をしましょう>

- 大きな声で指示を出したりする必要がないよう、マイクの準備をしたり、大きな文字のポスターやボード表示を事前に作成しましょう。
- 予め、体調不良者（咳、熱などの症状）が出た場合の連絡、指示体制について、支援してくれる専門機関・専門職とも相談し、確認しておきましょう。

<プログラム中>

- 万一にそなえ、参加者に連絡が取れるよう可能な限り、受付時に参加者の名前と連絡先を把握しましょう。
- プログラム途中で、必要に応じて消毒や、ソーシャルディスタンスの確認を促しましょう。その際、強制的な言い方ではなく、掛け声やみんなで一斉にするなど楽しい雰囲気づくりを心がけましょう。
- 会場の出入り口、トイレのドアハンドルなど重点消毒の箇所はプログラムの途中でも消毒をおこないましょう。
- 複数の窓を同時に開けるなど室内の換気をおこないましょう。毎時2回以上数分間の換気が目安です。
- 換気が難しい場合には、扇風機を使用しできる限り換気に努めましょう。

- 飲み物やお菓子（できるだけ個包装）を提供する場合は、セルフサービスの導入やおぼんやトレイを使って、参加者にとってもらうなど、直接手渡しをしないようにしましょう。
- 屋内、屋外問わず、小まめな水分補給を心がけましょう。
- 屋外での事業において、人との距離が十分に保たれている場合は、熱中症を防ぐため運動中はマスクを外しましょう。
- マスクの着用により、熱中症のリスクが高まる恐れがあります。マスク着用中は激しい運動は行わないことなど、気を付けましょう。

<流行期間中は注意が必要な活動内容>

- 流行期間中は、狭い場所での会食やお喋りしながらの会食、皆で一緒に歌うコーラスなどのプログラムは控えましょう。

<プログラム終了時>

- プログラム終了時に一斉に参加者が帰ると接触度合いが高まるため、時間をずらしたり、配慮が必要な方を優先するなど配慮しましょう。
- 参加者がだした飲み物や食べ物のゴミは、小さなゴミ袋を手渡し、持ち帰るようにお願いしましょう。

<プログラム終了後>

- 会場の清掃と消毒を丁寧におこないましょう。
- スタッフで反省会をおこない、実際にやってみて起きた問題点などを話し合い、次回の改善につなげましょう。
- スタッフの負担や不安の軽減に努め、お互いにねぎらって、心のケアを忘れないようにしましょう。
- 実施中に発生した問題や検討すべき課題などは、専門機関・専門職などに報告し、情報の共有が出来るようにしましょう。

_____学区社協 チェック項目

- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____

参考資料

- 令和 2 年 6 月 1 日京都市保健福祉局健康長寿企画課
「緊急事態宣言の解除に伴う事業再開及び感染症対策について」
- 東京都健康長寿医療センター研究所（東京都老人総合研究所）
「通いの場×新型コロナウイルス対策ガイド第 1 版」